

南部町・南部川村合併協定調印式

日 時 平成15年12月7日(日)午前10時

場 所 紀州南部ロイヤルホテル グランドホール

司会 皆様、本日は大変お忙しい中、ご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。

それでは、ただいまから南部町・南部川村の合併協定調印式を開会させていただきます。開会にあたりまして、合併協議会会長山田五良南部川村長よりご挨拶を申し上げます。

山田南部川村長 調印式の開会にあたりまして、会長を仰せつかっております、南部川村の山田でございますが、一言ご挨拶申し上げます。

南部町と南部川村は地方自治法第255条の2第1項及び市町村の合併の特例に関する法律に基づきまして合併に関する協議を行う為に平成14年、西暦2002年11月11日に、南部町・南部川村、両議会におきまして南部町・南部川村合併協議会設置案が可決をされました。

翌12日に両町村長が規約に関する協議書に署名をいたしまして法定協議会が発足をいたしました。

その後、直ちに21人の協議会委員を選任いたしまして、11月19日に第1回合併協議会が開催されました。以来、本年11月25日まで10回に及び会議を重ねていただいたのであります。

その中で新町新しい町の名称に関する専門委員会とそれから議会議員の定数等に関する専門委員会を設置をされまして、議会議員の定数等に関する専門委員会にあっては2回の委員会をもっていただき、名称に関する専門委員会につきましては5回の会議を開催されまして、それぞれ専門分野で検討、協議を重ねていただきました。その結果が本年11月25日の第10回協議会におきまして合併協定書案を最後に全協議が議了成立されまして、本日の調印式に至った次第でございます。

ここに至るまでには、当協議会委員の皆さんのご努力とそれから両町村議会及び両町村民のご理解があって、この成果が出来たものと存じまして心より敬意と感謝を申し上げます。

さらにまたこの成果の上がる裏には両町村の助役以下、職員で構成する行政調整会議の努力がこの全協議をスムーズに進展をさせた大きな要因でありまして、これまた慰労と感謝の意を



表します。和歌山県から合併の推進に対しまして指導助言を賜りその上、職員の派遣や経費の補助等物心両面に渡りましてご支援をいただきまして、心から厚く御礼を申し上げます。

本日はまた木村知事様には特別立会人として、さらに尾崎県会議長様には特別ご来賓としてご臨席を賜りましたことを、誠にありがたく厚く御礼を申し上げます。さらには郡選出の県議会議員3人様、県市町村課長様にもご来賓を賜っておりまして合せて厚く御礼を申し上げます。

南部町・南部川村の合併は両町村民の意向を十分に尊重いたしまして相互の信頼関係と互譲の精神を堅持しつつ協議を進めてきたものでありまして、第1回からちょうど1ヵ年という短い期間に全協議が成立をみたものでありまして、本日ここに調印及び立ち会っていただける機会に恵まれました事、皆さんと共に喜び合いたいと思います。

協議会の委員の皆さん方には大変ご苦勞様でございましたが、これからも引き続き合併が仕上がるまで引き続きご指導、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

以上、よろしく願いを申し上げまして開会にあたりましての挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

(拍手)

司会 続きまして、本日ご臨席をいただいております、ご来賓の皆様をご紹介します。

和歌山県知事 木村良樹様でございます。

(拍手)

和歌山県議会議員 尾崎要二様でございます。

(拍手)

和歌山県議会議員 富安民浩様でございます。

(拍手)

和歌山県議会議員 坂本登様でございます。

(拍手)

和歌山県議会議員 花田健吉様でございます。

(拍手)

和歌山県市町村課長 坂越健一様でございます。

(拍手)

又、本日の調印式にあたりまして南部町・南部川村合併協議会の委員の皆様には立会人としてご出席いただいております。

それでは始めにこれまでの取り組みに関する経過を南部町・南部川村合併協議会の幹事会会



長南部町杉本正博助役からご報告申し上げます。

杉本南部町助役 それでは調印に先立ちまして、これまでの取り組みの経過につきましてご報告申し上げます。皆様方にお手元に配布させていただいております、レジメの3ページに取り組みの経過を簡単にまとめておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

先ほど会長さんから話がありましたように、当地域の合併の取り組みは平成12年4月の地方分権一括法の施行により地方の自立はどうあるべきか、とい

うような中で市町村合併は全国的に論じられ、平成13年1月に和歌山県の合併推進要綱に基づく合併パターンが示されました。そういう中であって、2月から南部町におきましては市町村合併出前講座を開催、又3月には両町村で特別委員会が設置されました。その間先進地視察を行うなど、合併についての研究が始められました。

それを境にいたしまして一方田辺周辺の10ヶ市町村におきましては、市町村合併は避けて通るべきではないという共通の認識のもと、平成13年に助役を中心とする田辺周辺市町村合併研究会を組織いたしました。

その後10月からは田辺周辺10ヶ市町村首長会を設置し、再三協議を行い平成14年1月には田辺周辺10ヶ市町村の首長、助役、正副議長による市町村合併の問題検討会を設置、合併協議会設立に向けて検討を行いました。

その間、南部川村では村内全地域で懇談会を開催し、平成14年1月には一般公募を含む南部川村市町村合併研究会を組織し、精力的に会議を重ねられました。

年度が変わりまして平成14年4月には田辺周辺10ヶ市町村による田辺広域任意合併協議会を組織し検討重ね法定合併協議会設立に向けて協議を行いました。

しかし、南部川村の研究会報告や南部町の5月に実施した住民意識調査の結果を参考に、住民の意向、議会の意見を踏まえ両町村とも法定合併協議会への参加を見合わせるようになりました。

その後、両町村間に合併気運が高まり7月に南部町・南部川村合併調査研究会を設置し、調査研究に入りました。両町村は長い歴史の中で、共有の文化を持ち日常生活においても住民の交流も盛んで、また地域の特産物である梅を中心とする産業経済におきましても、密接な関係を築かれております。このような状況の中で地方分権社会の到来、国、地方の財政状況を踏まえ、これらに対応できる南部郷の将来を見据え行財政基盤を図ることから、法定合併協議会を設置するため平成14年11月11日に両町村臨時議会におきまして、南部町・南部川村合併協議会設置議案が可決されました。翌12日に合併協議会が発足いたしました。



合併協議会では両町村の議会議員の代表、有識者、首長等による総数21名で構成し、11月19日に第1回の会議を開催するに至りました。それから皆様方にご配布いたしております、新町まちづくり計画に掲げておりますように、新町の将来像として「海・山・川の恵みの中で人が輝く快適なコンパクトタウン南部郷」を目指し、まちづくりの柱としては「緑豊かで快適な町」「長く住みたい魅力ある町」「便利・安心・安全な町」「互助・互恵の町」「梅日本一の元気な町」この5つを柱として取り組んでいく事を基本方針に、合併協定書の項目を確認し本日調印の運びとなりました。

次に合併協定書の内容につきましては時間の関係もございますので、基本4項目の紹介とさせていただきます。皆様方にはお手元に配布の協定書をご覧いただきたいと思います。

始めに合併の方式ではございますが、新設対等合併とすることで確認されております。

次に合併の期日につきましては、住民のサービスや各種事務執行などにできる限り支障の少ない時期を想定して来年の10月1日で確認されております。

次に新町の名称でございますが先ほど会長も申し上げましたように、合併協議会で専門委員会を設置し都合5回の会議を経てまた全戸配布による住民アンケートも実施し、この選定にあたってきました。平仮名の「みなべ町」で確認されております。

次に新町の事務所の位置は現在の南部町を第1庁舎に南部川村役場を第2庁舎とし、高城支所、清川支所は存続ということで確認されております。

以上が合併の基本4項目でございます。又、合併協議会ではこうした調整項目のほか新町のまちづくりの基本方針を始め、新町建設の根幹となる事業等を含む皆様方に配布しております、新町まちづくり計画を作成させていただいております。

以上簡単ではございますが、合併に向けての経過についてご報告とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(拍手)

司会 続きまして、合併協定の調印に入らせていただきます。なお、合併協定書は2部ございますので皆様にはそれぞれ2部とも署名をお願いいたします。署名の順番につきましては、最初に南部町長、南部川村長が行いますので、その後で立会人の皆様方をお願いしたいと存じます。会場の皆様方におかれましては、受付でお渡ししております資料の中に合併協定書の写しを入れておりますので、ご覧をいただきたいと思います。



それでは山崎町長、山田村長、調印をお願いいたします。

続きまして、立会人の皆様に署名をいただきたいと思います。私の方でお名前をお呼びいたしますので、ステージの方にお越しいただき順次署名をお願いいたします。

それでは南部町議会議長井上光博様、南部川村議会議長中家克己様お願いいたします。

南部町議会副議長山中邦夫様、南部川村議会副議長岡田政吉様お願いいたします。

南部町議会まちづくり政策調査特別委員会、副委員長平松泰一様、南部川村議会21梅の里づくり政策調査特別委員会、副委員長西玉集一様お願いいたします。

南部町委員三前雅信様、南部川村委員井口黎明様お願いいたします。

南部町委員立田圭一郎様、南部川村委員坂本さわゑ様お願いいたします。

南部町委員西野正和様、南部川村委員瀧川博己様お願いいたします。

南部町委員永井恵子様、南部川村委員中本アミ子様お願いいたします。

南部町委員尾崎剛通様、南部川村委員西定吉様お願いいたします。

南部町杉本正博助役、南部川村今木国隆助役お願いいたします。

日高振興局長小住博章様お願いいたします。

最後に特別立会人として、和歌山県知事木村良樹様にご署名をいただきたいと思います。木村知事よろしくお願いいたします。

それでは、皆様にご署名いただいた合併協定書を木村知事より両首長に、お渡ししていただきます。ステージの中央をお願いします。

ありがとうございました。

本日ここに木村知事を始め委員の皆様方の立会いの元に、南部町・南部川村の合併調印が正式に整いました。これを記念いたしまして、木村知事と両首長によります固い握手をお願いしたいと存じます。それではお願いいたします。

ありがとうございました。

続きまして、町村長から皆様方にお礼の挨拶を申し上げます。準備の為しばらくお待ちいただきたいと思います。

最初に、山崎繁雄南部町長からご挨拶を申し上げます。



山崎南部町長 お礼のご挨拶はこの日程表によりますと、私が閉会の挨拶を申し上げる事になっておるようでありますので、その席で知事さん以下にお礼を申し上げたいと思いますが、ただ今は、合併協定書に署名をさせていただいて、知事さんと固い握手をさせていただいてという感慨を皆様方に申し上げたいと思います。



自分の名前を書くのにこんなに緊張をして書いたのは、71年生きてきて初めてあります。字はえらい下手なんですけど、心を込めて署名をさせていただきました。今日を迎えるまでの感慨は申しますといくつかございますけれども、あんまり難しい話は別にいたしまして、田辺広域任意協議会から法定協議会に入らないという事を決めさせていただいた時のいきさつ、あるいは南部川村さんと法定合併協議会を作って、両議会の議決をいただいた時の感慨、本当に上手くいくのだろうかというふうに思いました。

しかし大勢の皆さん方は、南部町と南部川村なら合併はそらしやすいわな。梅という特産物もあるし、歴史的な関係もあるし、そらまあ、簡単に合併できらよという事を、よく言われるんですが、私はこの合併論議が始まって約3年になろうかと思いますが、今日を迎えるまでにとんでもない事だというふうに思っております。

本当に、南部の町長としてお礼を申し上げたい気持ちでいっぱいでありますのは、まず、山田村長さんが互譲の精神という事を言われました。お互いに譲り合っていこうという事であります。私はまた幹部職員を集めまして、南部川村の村政であるとか南部川村の職員さんに対する批判であるとかこういう事を一言でも言うと、これは承知しないと。私は職員をあまり叱るタイプではないんでありますけれども、厳命をいたしました。まさに村長さんの互譲の精神があって、今日を迎えたというふうに思います。

それを支えていただいた南部川村議会議員の皆様方、今、全国的に合併問題が進んでおりますが、議会が一致して南部町と南部川村が合併しろという事を決めていただいたのは、おそらくは南部町の議会と南部川村の議会だけではないかと。とりわけ私は南部川村の議会の皆さん方が全員一致して南部町と合併を進める事、そして大勢の研究会の皆さん方、そういう皆さん方も一致して南部町と合併を推進していただいた。

現実は何を譲っていただきましたかと言いますと、何と言いましてもその持っている財産でありますとか、資産というのは、残念ながら南部町と南部川村は比較にならないほど、南部川村は持っていらっしゃいます。まず、そこに互譲の精神を頂戴をいたしました。

私達は、南部町が互譲の精神を発揮したくても、発揮する部分が少のうございました。感謝の気持ちでいっぱいでありますし、その本当に互譲の精神に答えるべく頑張っていかなければならないというふうに思いました。

しかし、南部町におきましても議員が一致して、例えば私が田辺広域任意協議会から法定協議会に参加をしないという事におきましても、議論があったようでありますが、私はその時病床にありました。その時に当時の議長さんが文書を持ってきていただいて、議会が一致して南部川村と法定協議会に参加しないことに同意するという事前に文章を頂戴いたしました。それで本当に勇気が出たのであります。

合併というのは簡単なことではありません。まさに互譲の精神が本当に必要でありますし、又相手の立場に立つということではなかろうかと思えます。今日までの職員達の努力も本当に誉めてやりたいと。こういうふうに思いますが、これは閉会の方の挨拶がいいかも分かりませんけれども、これからがしかし私は大きな一つの試練の時だと。そして、合併準備室が1月に発足をいたします。法定協議会もまだそのまま協議の段階は別といたしまして報告させていただいて、ご意見を伺うという団体として残って存続していただく事になってございます。

これから来年の10月1日、合併の日を迎えるまで色々、紆余曲折があるかと思えますが今後ともご指導を色々賜りたいと思えます。

最後になりますが、10月1日の合併と決めていただいたのは南部川の村長さんであります。これは10月2日が私の任期であるから、10月1日と決めていただいたのであります。庁舎の件も名前の件もすべて村長さんが主導権を握っていただいて決めていただきました。

心から、改めて村長さん以下南部川村の議員の皆さんそして南部町の議会を始め関係の皆さんにお礼を申し上げましてご挨拶を終わりたいと思えますが、ただ一つ本当に先ほど村長さんのお話しにありましたように、やっぱり県のバックアップが無かったら私は出来てないのではないかと、こういうふうに思えます。

良い意味の、本当にモデルになりますように今後、村長さんと心を合わせて、職員と一丸になって皆さん方のバックアップをいただきながら、進めて参りたいと思えますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いを申し上げます。

先ほど申し上げましたように、お礼のご挨拶は改めて閉会の時にさせていただきますので、ご了解を賜りたいと思えます。本日はどうもありがとうございました。おめでとうございました。

(拍手)

司会 続きまして、山田五良南部川村長からご挨拶を申し上げます。

山田南部川村長 山崎町長さんと同じく感慨無量の気持ちでこの場に立ってございます。もう合併の経過だとか成果だとかいうのは、ここまでの成果というのはもうおわकारの通りであります、私



は私なりにこの感慨というのを持ってございます。

それは50年先にさかのぼります。昭和28～9年の昭和の合併の時に、たまたま私はまだ一職員として、今で言えば総務課の職員として当時の合併事務を担当しておりました。その時は旧南部町、それから岩代村、上南部村、高城村、清川村この5つの町村の合併構想で進んでおりました、私は上南部村の職員としてその事務を全部やらせていただいております。今でもその書類は、私の字が残っています。その時に一定のところまで進んで参りまして、そしてある時に、その今で言う合併協議が不調に終わったと。もうこれで分裂だという事を当時の村長なり委員の皆さんにうけ賜りまして、本当に楽しみにしておって、5つが1つになって私も若かったから、新しい5つの合併に入り込んでですね、しっかりやらないかなと思ってた時にそれがガタガタと崩れてしまった非常に残念な思いをしたのが50年前でございました。

以来、南部町と南部川村が出来まして、これは今まで非常に良い意味でのライバル関係でありまして、少しも喧嘩はしていません。本当にお互いに切磋琢磨して、ライバル関係で両方も町村行政というのを振興してきたと思います。

その間に南部の山崎町長さんが私より5年先に町長になられまして、大先輩でございます。後から私も村長にならせてもらったんですけども、山崎町長さんと2人でお互いに意識はしていたかも分かりませんが、これまた衝突したりするような事がございませでした。

町長さんも職員時代もございましたし、私も職員時代がありまして、共にしかも同じ事務を国民健康保険、創立と同時に同じ事務を担当しておったわけなんです、以来進んで参りまして、山崎さんが先に町長になられ、私が後からなったんですけども、そして2人で南部郷をつくりあげてこれたと思っておりますし、今回の合併につきましても、この間も町長さんと機会がございまして、「あがらこんなに簡単にいったのは何故やるに」というような、2人でそんな事を分析しながらですね、話し合ったわけでありまして、詰まるところ、何やの今まで喧嘩した事なかったな」という事が一つ、仲良くやってきたなというこれまた私から言えば先輩に対して失礼ではありますけれども、事実そういう事であったわけです。

それから合併できてきたなというのは、これはやっぱり2人で「大人の仕事」をしたなと。やっぱり、この合併というのは大人の感覚でやらないと、細かい事をゴチャゴチャとつつきあいしてたらできるものではないと。2人で大人の仕事で出来て、それが良かったなとそういう話しを2人でいたしました。

2人はそうでありますけれども、議会、それから両町村民、各種団体の皆さんの理解、協力があつての事でございます。私はこの合併で特色と言いますか特質すべき事は、議会の皆さんが合併特例法を使わずに9月30日で全部、失職するというその英断をなされたという事でありまして。これは全国でもそんなに例が無いのでは無いかと思います。視察によく来てくれます。必ずそれ聞かれます。それで議員の任期はどうしたのか。大体は2年間の特例を適用して、2年間在任されています。それが当たり前になっているわけです。

ところがこの両町村の議会の議員さんは「もうとにかく、南部町と南部川村が無くなるのだから、その段階ではあがらもう終わろうやないか」と。そして新しい町の議員を選出していいのではないかと。これ私は本当に崇高なお気持ちでありまして、敬服とかというようなもので

はございません。よくぞまあそこまでご決断をしていただいた。視察に来てくれる人もあきれいています。何でそんなになったのか、という事も言われていますけれども。又、耳に入ってくるのは、「町長も村長も助役も収入役も失職するんやから、あがらも失職して新たに出直そうやないか」というようにおっしゃられたという事を私は耳にしました。本当によくここまで、ご決断、崇高なお気持ちになっていただいたと。

こういう事が、この合併の進んで参りました要因の大きな事になると思います。改めて敬意と感謝を申し上げます。くどくど申し上げましたけれども、ここで、今日で、まだ明日あるんです。明日、両町村議会で議案として出します。そこで可決してもらって初めて「やれやれ」になるんですが、それはまたお願いするといたしましてですね。

今日、テレビも来ていただいていますけども、テレビ番組の中に「その時歴史が動いた」という番組があります。私はあの番組、非常に好きでありまして見ているんですけども、まさに我々の世界におきましては、大きな歴史の動いた日であります。

これから調印が出来、明日の議決が可決得られますれば、可決をして欲しいんですよ、お願いします。していただきまして、そうすれば、年越しましてから新しい段階で9月30日、10月1日に向けて、9月中にできれば8月中ぐらいに全部仕上げておきまして、今度は今の協議内容というのはおおざっぱなものです。それをできるだけ煮詰めて10月1日には町民の皆さん、村民の皆さんに、こうしていくんですよという事の皆さんにお示しできるように、これから年越ししたら、町長さん或は両町村職員共々、準備に万全にしていきたいと、このように思っております。

どうぞ、そういうふうにできるように、10月1日にスムーズにスタート出来ますように、なお一層のご協力とご指導をお願い申し上げます。同時に県におかれましては、正直言って知事さんに申し上げるのは初めてですけども、協議段階で振興局長さん、或は市町村課長さんに随分気ままな事を申し上げました。それを認めてくれるか、くれないかはわかりませんが、とにかく今日は知事さんが署名してくれたんだから、だいたい容認はしていただいていたのかなと思うんでありますが、何しろ第1号でありますからね、他の人ずっと後へついてきますから、だから先頭ランナーはよほど気をつけて物事にかからないかと思ひまして県の方へも、振興局長さんにも随分気ままを申し上げましてきたわけですが、ご理解賜りまして本当にありがとうございました。

感慨無量の気持ちを申し上げまして、あいさつにさせていただきます。ありがとうございました。

(拍手)

司会 続きまして、ご臨席をいただいておりますご来賓の皆様方よりご祝辞を賜りたいと存じます。初めに、和歌山県知事木村良樹様からご祝辞を賜りたいと存じます。よろしくお願いいたします。

木村和歌山県知事 本日は南部町と南部川村の合併調印式が、このように盛大に開かれた事を県として本当に心からお喜びを申し上げます。そしてまた合併、「言うは易く行は難し」というふうに思います。評論家的に、合併した方が良いんだとか合併すればものすごくまいといくんだとかというような事をいうのは非常に簡単で、だけど長い歴史、いきさつというふうなものを踏まえた上で、実際にここまでこぎつけてくる苦勞という



ものは、僕は並大抵なものではないものがあると思います。もともと江戸時代には南部組、南部郷南部組と言って30村があったのが、それが5村になり2町村という形です。ずっときたわけです。

今、山田村長さんの話しにもありましたように、昭和29年の合併の時には色々な事が、近いから簡単だというのじゃなくて、近いから難しいという問題もあるわけです。現に南部町と南部川村では第1次産業の従事者と第3次産業の従事者の割合が逆になるということで、ある意味では海と山ということで、やはり違う性格を意味している地域であるわけです。梅という事では一緒でもなかなかそういうところに色々な思いがあると。それを克服されて今日の日を迎えられたのは、ひとえに和歌山県内でも本当に立派な首長として有名である、南部町の山崎町長、そして南部川村の山田村長の手腕におうところが私は非常に大きいというふうに思い、心から敬意を表するしだいでございます。

そして又、先程山田村長さんのお話しにもありましたように議会議員の方々、自分たちは辞めてそして新しい町の議員をまたすぐを選び直すと、こういうふうな決断をされる議会議員の方々、本当に僕は立派だと思うし、その地域を思う気持ちというものの崇高さに打たれるわけでございます。

合併というものは、本当はしないで今までのまま楽しく暮らすという事が出来れば一番ハッピーなのかもしれません。だけど、国、地方合わせて700兆円の借金がある、そういうふうな中で今のままでは駄目だという事がある中で皆さん方が本当に苦渋の決断、そして苦勞のある合併にこぎつけられたわけですが、その中で一番立派だったと思うのは、お互いの町村がそれぞれの悪いところを挙げつらうというふうな事はしないで、お互いの良いところを見ていくとそして相手を誉めていくということの中から、こういう合併にこぎつけられたと。これ本当に僕は素晴らしい事だと思うし、これから後についてくる市町村、本当に模範になると思います。

1号というのは大変値打ちがあります。テレビ局も2号目からこんなに沢山きませんけれども今日は皆来て、これまあテレビに放映されるんだらうと思いますけれども、何といたってもこの南部町そして南部川村、来週には高速道路のインターチェンジも開通します。

そして全国の梅の生産の4分の1を出して、そして梅もまたこの頃良い話がだんだんと回復してきているというふうなことで、私はこの地域については本当に和歌山の中でも非常に将来性のある楽しい地域だというふうに思っております。

新しい町が来年の10月に発足して、そしてこの和歌山県の中に本当に成長性のある平仮名の「みなべ町」として大発展を遂げられることを心から懸念して、又県も第1号のモデル町村ですから、積極的に応援をしていきたいと思っております。私は以前、「潮の香に 梅の香もよし 南部郷」という句をこれは、黛まどかさんの句会かな、何かの時に詠んだ事があるんですけども、本当に今度名実共に南部郷が一つになるという事で観光的な売り出しということについても、本当にうまいこといくのではないかとというふうに思っております。皆さん方のご労苦と、そして新たに生ずる「みなべ町」の大発展を心から祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。今日はどうもおめでとございました。

(拍手)

司会 ありがとうございます。

本日は、和歌山県議会から尾崎議長を始め、地元日高郡選出の富安議員、坂本議員、花田議員にお越しいただいております。県議会を代表いたしまして、県議会議長尾崎要二様よりご祝辞を賜ります。

尾崎和歌山県議会議長 ただ今、ご紹介を賜りました県議会議長の尾崎でございます。南部町、南部川村の合併の協定調印式、盛大に開催されますことまず、心より喜びを申し上げたいと思います。大変ご苦勞をいただいて、県下の第1号という事で、その先陣を切っていただいております。県議会の中でもこの動きを大変心強く感じをさせていただいております。

各地域で今、その動きがあるわけでありましてけれども、一進一退というような近づいて来れば来るほど少し方向性が、ぶれていくなというように感じる地域もございます。ヒヤヒヤしながらそれを今、議会としても見守らせていただいているような事であるわけでありましてけれども、今日、こちらへ出席をさせていただいて1つ感じたのは、合併というのは、町と町、地域と地域が一緒になることを合併という言い方、又取られ方が多いわけでありましてけれども、今回の南部町と南部川村の合併、この調印今日までの歩みを見させていただいたら、やはり合併というのは人と人が一緒になっていくというのが合併だなということをつくづくと感じさせていただきました。



今日までも町村会でその人有りと言われた南部町の山崎町長さん、また南部川村の山田村長さん、それぞれ大変な町村長さんでございます。互いに力を合わせて、そして合わせてそれを理解をされる、又、色んな提言をされる立派な町議会、村議会がその懐の中にあるというか、同じ歩みをされておられると。我々、議員というのはどうしても自分の身分に関わる話になりますと、歩みがまたくなるわけであります。時には首がかかった話には臆病になるわけですが、もう来年の10月1日合併と同時に特例を使わないで自分たちも辞して、新たにもう一度選挙をし直そうという決断をされたということで、大変その感銘も受けさせていただいてるわけでありますけれども、やはり心構えが違うなという感じ本日もつくづくさせていただいてございます。

合わせて、町長さん、村長さんの命を受けて一生懸命その職務に精励された町村職員の皆様方、そして先ほどから立会人という事で合併協議会の委員の皆さん方も大変なご苦勞をいただきました。心からこの点に関しても感謝を申し上げたいと思います。

常に和歌山県というのは、日本の国の中では2次産業、3次産業へどんどん流れていくわけでありますけれども、やはり日本一の梅の里として1次産業も水産業も含めて我が町の顔はこうだと、やはり胸をはって生きる地域があつてこそ、本当の意味で和歌山県だなという姿を私は理想と考えております。その点においても、今回の高速のインターということもでございます。そういう点もフルにご利用いただいてなお、新しい平仮名の「みなべ町」が大きく飛躍をされると、そうしていただく流れが県内の後へと続く、それぞれの合併の皆さん方の手本になるという事でその期待もさせていただいてございます。本日までのご苦勞に対して心から感謝を申し上げますと同時に、今後も一つよろしくお願い申し上げたいというお願いもさせていただいてお祝いの言葉といたします。ありがとうございました。

司会 ありがとうございました。ここで本日の合併協定調印式に際しまして、祝電が届いておりますのでご披露させていただきます。

南部町・南部川村合併協定調印式のご盛會を、心からお祝い申し上げます。地域発展の為、ご尽力いただいております、山崎町長さま、山田村長さまをはじめ、関係各位の皆様方に敬意を表しますと共に、両町村長ますますのご発展と皆様方のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。
総務大臣政務官 参議院議員世耕弘成様

南部町・南部川村、県内初の合併協定調印式が、両町村の皆様方のご努力により実現をみるに至りました事は、地方自治の拡充強化と住民福祉増進の為、誠に喜ばしく心からお祝い申し上げます。新しい町「みなべ町」として今後ますますの飛躍発展を心から祈念申し上げます。
和歌山県町村会長 桂功様

南部町・南部川村の合併調印おめでとうございます。これまでの両町村の皆様方のご努力に対し敬意を表しますと共に希望にあふれる新みなべ町が誕生されます事をご祈念申し上げます。日高郡町村会会長 中津村長 笹朝一様

以下、時間の都合上ご芳名のみご紹介させていただきます。

和歌山県信用農業協同組合連合会経営管理委員会会長 谷本正富様

みなべいなみ農業協同組合代表理事組合長 鈴木操様
みなべいなみ農業協同組合代表理事専務 鈴木義一様
紀陽銀行頭取 片山博臣様
紀陽銀行南部支店 支店長新谷正巳様
紀陽ソフトウェアサービス株式会社 代表取締役社長 浅井要様
ありがとうございました。

(拍手)

以上合併協定調印も滞りなく終了いたしました。

ここで閉会にあたり合併協議会副会長山崎繁雄南部町長より閉会のご挨拶を申し上げます。

山崎南部町長 謹んで閉会のご挨拶を申し上げます。

本日、南部町・南部川村合併協定調印式に際しまして、まず、ご来賓の皆様のご代表として知事さんと県会議長さんがご列席を賜りました。大変お忙しい方であらっしゃいます。心から皆さんと共に敬礼を申し上げたいという思いです。又、素晴らしいご祝辞を頂戴いたしました。若干私としてはこそばいようなところがありましたけれども、本当に勇気付けられた気持ちであります。



又、県会議員の諸先生方そして、非常に着任早々、私の方はあまり言わなかったんですが、南部川村の村長さんがだいたい市町村課長さんに電算の話からお金の話をされました。私はそばで聞いておったのですが、村長さんも「言うたいこと言うな」と、若干思いまして。今日はまあ、挨拶に来たんやからと思いましたが、それがよくお聞きとめをいただいて、私は調印式までそれ決めていただけないのだと思っていたんですが。

皆さんにご報告申し上げますが、電算の処理に1億以上のお金がかかるんですね、それに対して1町村ごとに1千万円の補助をしてやろうと。これは今、県財政は大変な状況。そこで南部町と南部川村に1千万円したら、他のするところも必ずこれせんならん。これ大変な知事さんのご決断だと思いますが、課長も大変ご努力をいただいたんだろうと思います。心から厚く御礼を申し上げます。

それから知事のご命令とはいえ、局長でいらっしゃいます小住局長さん、1回だけ公務で出席できなかった時があったんですかね、それ以外はもう全部ご出席をさせていただきまして色々ご協力を賜りました。又、県より職員を派遣をさせていただきました。こういう町村と相提携するという県でなかったら、私は合併は上手く今日を迎えてなかったのではないかなと。モデルになれモデルになれということですから、本当に良い意味のモデルにならなきゃいかんという

ように思います。

それからお忙しい中にも関わりませず、私達がお願いをいたしまして合併協議会に委員にご就任をしていただきました皆さん方、この1年の間、大変ご心労をおかけいたしました。町民、村民からも色々ご注文もあったかと思しますのでその点で厚く御礼を申し上げたいと思います。

また本日は区長さん方がお見えであります。議会の皆様方と共に、区長として特に私は印象に残っておりますのは区長会におきまして、それぞれ各区に出向いて合併の話しをさせていただきました。これまた厚く御礼を申し上げたいと思います。

それから県会議長さんからもお話しありましたけれども、職員の皆さん方、本当に局長以下、頑張っていたいたし、両助役、私は、山田さんもあまり協調、協調と言いながらそらやっぱり、こうなけりゃならんという思いがあります。これ南部町のこととか南部川村のサイドに立っての話じゃなしに、合併するならこうなきゃならんという事があります。ところがその調整は非常に難しいことも投げかけました。それを見事にまとめていただいて、頑張ってくれた助役以下、職員に対しまして村長さんと一緒に御礼を申し上げたいと思います。

本当にお礼の言葉ばかりであります。先ほども申しましたけれども、来年の10月1日、来年と言いましても後、9ヶ月ちょっとですね。10ヶ月ないわけです。その時までには色々調整しなきゃならんというケースがございます。どうぞ皆さん方これで任務は終わったわけではありまして、明日議会で議決をいただきます。いただけなかったら、これは両町村長、辞職せないかん。全員一致でいただけるものと確信をいたしてあります。よろしく願いしておきます、ここで。それは冗談じゃなしに思いがあります。

そしてそれを受けまして、知事さんをお願いに行きまして、その合併の議会の議決書をそえて申請をさせていただきます。そして、県議会の方の今度は議長さんをお願いをして、議会で議決をしていただきまして、それから総務省へ参ると。こういう法手続きがまずスタートいたします。

それから色々なことを調整していかなきゃなりません。本当に10月1日には、新しい町長ができるわけではありまして、そこから50日以内の間にできるわけですね。議会も新しくなります。

何といたっても新しい町長さんが、きちんとした人が町長になってもらいたい。私はご免なんです。村長さんは今のところまだ分かりませんが、それは冗談話ではないんです。だから、新しい町長さんは大変なものだと思います。本当に新しい議会の皆さん方も大いに立候補していただいて、16名の中に建設的なご意見を賜らなきゃ。そこが、本当の意味の新しいみなべの町の出発点だと思います。それまでの間、私は山田村長と一緒に懸命に努力をいたします。皆さん方のご支援やご鞭撻を心から切望いたします。

最後にマスコミの皆さん方に心からお礼を申し上げます。特に地方新聞の皆さん方が色々、合併のことを書いていただきました。まさにその一文一行、その一句がですね、これは住民の皆さんに大変な影響があったわけでありまして、その点で心からお礼を申し上げます。また本日お越しいただきました、テレビや大新聞の皆様、今日のことを色々な点で記事にしてい

き或は映像にさせていただけると思いますが、これまた住民に対する最高の情報公開であります。よろしくお願いを申し上げ、今日は日曜日にもかかわらず、遠路お越しをいただきましたマスコミ関係の皆さんにも心からお礼を申し上げまして閉会の挨拶といたします。

本当に皆さんありがとうございました。

司会 以上をもちまして、南部町・南部川村合併協定調印式を閉会とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

なお、報道関係の皆様にご連絡申し上げます。この後、引き続き共同記者会見をサルビアの間で行ないます。どうぞ、ご参集下さい。

午前 11 時 15 分終了

